

氏名	山田恵子	部署	共通教育科	職名	准教授
研究分野	整形外科（運動疫学、ロコモティブシンドローム）、公衆衛生学（ヘルスリテラシー）、医療情報学				
学位	博士（医学、東京大学）、修士（医療政策管理学）、修士（公衆衛生学）				
学歴	東京大学医学部医学科卒業、東京医科歯科大学大学院医療政策学修士課程終了、Harvard School of Public Health 公衆衛生学（Clinical effectiveness）修士課程修了				
経歴	2018～ 東京大学医学部附属病院 企画情報運営部 助教 2022～ 埼玉県立大学 保健医療福祉学部 准教授				
所属学会（役職）	日本整形外科学会、日本リハビリテーション学会、日本運動器科学会、日本老年医学会、医療情報学会、American Association of Health Care Journalists				

【2023年度実績】

1. 研究業績							
(1) 著作							
	著作の名称	単・共	ISBN	発行所、全ページ数		著者、編者名	発行等年月
1	該当なし						
(2) 論文							
	論文の名称	単・共	査読	IF対象誌	雑誌名、巻（号）、開始-終了ページ	著者、編者名	発表等年月
1	「医療情報をわかりやすく発信するプロジェクト」の活動について	共著	なし		レギュラトリーサイエンス, 54(6) 548-551	<u>山田恵子</u> , 井出博生, 早川雅代	2023.12
2	ロコモにおける性差	単著	なし		整形・災害外科, 66(13) 1581-1591	<u>山田恵子</u>	2023.12
3	栄養と運動の観点から健康増進に必要な保健医療情報を考えるシンポジウムの活動報告	共著	あり		医療情報学, 42(6)	青木 美和, <u>山田 恵子</u> , 久野 譜也, 平井 啓, 佐々木 敏, 等々力英美	2023.4
(3) 学会発表							
	学会発表の演題	単・共	学会名、開催都市		発表者（発表者は○印）		発表等年月
1	医学系研究をわかりやすく伝えるための手引き」（初版）の作成過程の報告	共同	ヘルスコミュニケーション学会、福島市		○井出 博生, 早川 雅代, <u>山田 恵子</u>		2023.9
2	エビデンスに基づいた「医学系研究をわかりやすく伝えるための手引き」一般と医学系研究で使われ方が異なり、解釈に注意を要する用語の抽出と解説の作成	共同	ヘルスコミュニケーション学会、福島市		○ <u>山田 恵子</u> , 田中 祐輔, 川端 祐一郎, 早川雅代, 井出 博生		2023.9
3	用語「QOL」の捉え方の多様化	共同	ヘルスコミュニケーション学会、福島市		○早川 雅代, <u>山田 恵子</u> , 井出 博生, 田中牧郎, 小川 留奈, 山口 育子		2023.9
4	ロコモティブシンドローム患者への歩行指導における加速度センサーの活用についての検討	共同	日本運動器科学会、東京都		○大木 孝裕, <u>山田恵子</u> , 緒方徹		2023.7
5	SNS（Social Networking Service）を用いた運動習慣への介入の試み	共同	日本運動器科学会、東京都		○ <u>山田恵子</u> , 名田茂, 田口友美恵, 大木孝裕, 緒方徹		2023.7
6	「医学系研究をわかりやすく伝えるための手引き」の提案と作成	共同	日本整形外科学会、横浜市		○ <u>山田恵子</u> , 井出博生, 早川雅代		2023.5
(4) その他							
	名称	単・共	発表場所等		発表者（発表者は○印）		発表等年月
1	ヘルスケアアプリによって健康は改善するか？	単著	日本医療情報学会課題研究会		○ <u>山田恵子</u>		2023.11

2	責任ある研究・イノベーションの展開に向けて」～社会との対話を通じた「責任ある研究活動」の推進 ―医療分野の研究開発の事例から―	単著	文部科学省 研究公正推進事業 研究公正シンポジウム	○山田恵子	2023.11
2. 競争的資金等の研究					
	競争的資金等の名称	研究名		研究代表者・研究分担者の別	研究期間
1	受託研究	「日本語Plain Language Summary作成に関する研修業務および効果測定に関する研究」		研究代表者	2023-2024
3. 教育業績					
(1) 講義					
	講義の名称	科目責任者	コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）	
1	整形外科学	○	15	理学療法学科および作業療法学科の2年生が対象であることを考慮し、図や動画等を多用して視覚的に理解できるよう努めた。また、授業内で小テスト等も活用し、聞くだけにならないよう、知識の定着に努めた。	
2	リハビリテーション医学概論	○	8	複数の学科の必修・選択科目であることを配慮して、できるだけ簡易な用語を用い、図や動画を多用して視覚的に理解できるように授業を実施した。	
3	リハビリテーション医学	○	15	理学療法学科および作業療法学科の2年生が対象であることを考慮し、図や動画等を多用して視覚的に理解できるよう努めた。理解を深めるために毎回授業の後に小テストを行った。	
4	加齢神経運動機能論		2	大学院課程の講義であり、2コマであることを考慮して、特定の「運動器」に関するトピックを提供し、最新の話題を盛り込む等、高度教育課程の学生の理解を助け、学習意欲の向上につながるよう努めた。	
5	応用人体構造機能論		4	大学院課程の講義であり、4コマであることを考慮して、特定の「運動器」に関するトピックを毎回異なる視点から提供し、最新の話題を盛り込む等、高度教育課程の学生の理解を助け、学習意欲の向上につながるよう努めた。	
6	フィジカルアセスメント_2023		1	大学院課程の講義であり、1コマであることを考慮して、特定の「運動器のフィジカルアセスメント」に絞った講義を行った。できるだけ1コマの授業で、表題について俯瞰できるような授業構成とし、学生の理解を助け、学習意欲の向上につながるよう努めた。	
7	保健医療福祉とリハビリテーション		4	大学院課程の講義であり、4コマであることを考慮して、3コマの講義に関しては、特定の「運動器に関するリハ」に絞った講義を行い、学生の理解と学習意欲の向上に努めた。1コマのディスカッションでは、他教員と協力して、学生の統合的な理解が深まるよう努めた。	
(2) 演習					
	演習の名称	科目責任者	コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）	
1	臨床画像診断演習 A		8	整形外科学を履修した3年次の理学療法学科の学生が対象であることを考慮し、運動器の画像に対し、全ての学生が回答する双方向性の授業を行うことで、理解の助けと学習意欲の向上に努めた。理解を深めるために授業中も模型等を提示した。	
2	臨床画像診断演習 B	○	8	整形外科学を履修した2年次の作業療法学科の学生が対象であることを考慮し、運動器の画像に対し、全ての学生が回答する双方向性の授業を行うことで、理解の助けと学習意欲の向上に努めた。理解を深めるために授業中も模型等を提示した。	

3	理学療法特別演習		1	4年生を対象に過去の理学療法士国家試験の問題の演習を行った。画像中心に解説を加え、理解の向上に努めた。意欲がある者に対しては、さらに過去の過去問を自習できるよう解説したものを利用できるようにした。
4	作業療法総合演習		1	4年生を対象に過去の作業療法士国家試験の問題の演習を行った。画像中心に解説を加え、理解の向上に努めた。
(3) 実習				
	実習の名称	科目責任者	学外実習：期間 学内実習：コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）
1	IPW実習		2023.10 学外実習6日間	4年生を対象に、在宅医療や介護の地域医療連携につき、深く学ぶことを現場で支援した。実習施設及び同施設他グループの教員と共に、多業種連携と統合を支援した。
(4) 論文指導				
	対象	期間	主指導・副指導の別及び指導人数	
1	修士論文	2023.4-2024.3	主指導（指導教員）	名副指導（指導補助教員）2名
(5) その他				
	名称	期間	概要（教育内容・方法等において工夫した点）	
1	該当なし			
4. 社会貢献活動				
(1) 講演会、研修会、公開講座等の講師				
	講演会、研修会、公開講座等の名称	主催	講演、研修、公開講座等のテーマ	開催年月
1	日本語PLS作成ワークショップ	第一三共ヘルスケア	日本語でP L Sを作成するには	2024.1
2	医療情報の多様化に伴うヘルスコミュニケーションのあり方	日本医療政策機構	ヘルスコミュニケーションのあり方 について	2023.12
3	健康長寿プログラムのエビデンスと習慣化に向けて	埼玉未来大学	ロコモ・フレイル対策	2023.6
(2) 国、自治体、学術団体等における委員等				
	国、自治体、学術団体等の名称	委員等の名称		任期
1	日本整形外科学会 広報・渉外委員会	委員		2019年- 2023年
2	ロコモチャレンジ！協議会	委員		2010年 - 現在
3	経済産業省事業 保健医療福祉リアルワールドデータ活用 促進のための国際標準化 「ヘルス&ケアデータプロセスモデル」 国際規格開発委員会	委員		2021年 - 現在
4	ISO/TC215/WG11(Health informatics, personalized digital health)	expert member		2021年 - 現在
5	日本医療情報学会, 栄養・運動・口腔保健・休養の自己管理のための保健医療情報研究会	幹事		2021年 - 現在
6	ロコモ関連用語英訳ワーキンググループ	委員		2022年 - 現在
7	日本医学会連合広報委員会 ウェブサイトリニューアル検討ワーキンググループ	委員		2023年 - 現在
8	ISO/AWI TS 16569 Health informatics Standardized Dataset for Exchanging Musculoskeletal Exercise Therapy Recommendations	expert member		2023年 - 現在
(3) ジャーナリズムでの発言				
	メディア等の名称	内容		年月
1	テレビ東京	いつまでも元気に歩ける足腰作り		2023.8
2	BS朝日	高齢者の動ける体づくりについて		2023.7
3	47news	医療の言葉を分かりやすく 情報発信者向けに手引		2023.7

4	東京新聞	医療の言葉を分かりやすく 情報発信者向けに手引		2023.6
5	佐賀新聞	医療の言葉を分かりやすく 情報発信者向けに手引		2023.6
6	高知新聞	医療用語 誤解避けよう 専門家向け言いかえ集		2023.6
7	下野新聞	医療の言葉を分かりやすく 情報発信者向けに手引		2023.6
8	岩手日報	医療の言葉を分かりやすく 情報発信者向けに手引		2023.6
9	新潟日報	医療の言葉を分かりやすく 情報発信者向けに手引		2023.6
10	山陰中央日報	医療用語分かりやすく 情報発信者向けに手引		2023.6
11	埼玉新聞	医療の言葉分かりやすく 情報発信者向けに手引		2023.6
12	千葉日報	医療の言葉分かりやすく 情報発信者向けに手引		2023.6
13	西日本新聞	誤解されやすい医療の言葉 情報発信者向けに手引		2023.6
14	山口新聞	医療の言葉を分かりやすく 情報発信者向けに手引		2023.5
15	秋田さきがけ	医療用語、分かりやすく 情報発信者向けに手引		2023.6
(4) その他				
	項目	相手方等	内容	期間
1	該当なし			
5. 学内運営				
	項目	内容		期間
1	学科等における委員会等	奨励研究部会 委員		2022.4 - 2023.11
2	学科等における委員会等	奨励研究部会 部会長		2023.12 - 現在
3	学科等における委員会等	保健委員会 委員		2022.4 - 現在
4	学科等における委員会等	研究推進委員会 委員		2023.12 - 現在
6. 受賞（研究、教育、社会貢献活動に関するもの）				
	受賞名		主催	受賞年月
1	該当なし			
7. 特許の取得				
	特許名		特許番号	登録年月
1	該当なし			
8. 特記事項				
1	該当なし			